

豊川市で行われた五輪聖火リレーに関するお便り

提供者：橋本武史さん

大阪は、感染拡大で五輪聖火リレーは中止、セレモニーのみとなりましたが、4月6日に豊川市で行われた五輪聖火リレーに関する新聞記事と写真の提供を受けましたので紹介させていただきます。

*4月7日の中日新聞東三河版の五輪聖火リレーの記事

行感の思いで駆ける

豊橋と豊川でリレー

沿道では子どもたちが旗を振り、聖火ランナーを後押しした。スマートフォンのカメラを向けたり、手を振ったりする人も多く、近づくと五輪への期待が高まった。

豊橋市の国道1号近くで聖火を受け受けた同市牛川通の建設業柴田政孝さん(モ)は、一九六四年の東京五輪の聖火リレーも市内で見た。「中学一年の時、全校生徒で国道沿いに並んだ。また見られるとは思わなかったと感動した様子。一緒に来た孫の伊藤駿佑君(ロ)も「聖火はきれいだった。もう一度チャンスがあったら見たい」と喜んだ。五十七年前の東京五輪で、聖火ランナーを務めた。

同市向山町の河辺道夫さん(モ)は「ゴールの市陸上競技場を見守った。あの時こんなふうに気持ちの良い晴天だね。自分が走った時を思い出して、とぎとぎしたと目を細めた。」

一方、五十七年前は沿道で応援した元東三河陸上競技協会の夏目輝久さん(モ)は「教えることに感染させた方がいい」と観戦を見送った。指導者として地元豊橋市出身の女子マラソン代表鈴木亜由子選手(ロ)も「日本郵政グループの成長を支えてきただけに、メダルもそうだけど、けがを乗り越え、元気に走る姿を見てほしい」と本番に向けて選手たちにエールを送った。



豊川稲荷での聖火リレーを見るために集まった大勢の人たち＝豊川市で



聖火ランナーの鈴木さん(左)の後ろに続く観衆たち

県内二日目の聖火リレーの出発式があった豊橋市のことも未来館(こ)にこは、大村秀章知事が駆け付けた。「愛知の名所とともに聖火ランナーの姿が世界中に配信され、多くの人に愛知の魅力を知らせてもらえたい」とあいさつ。浅井由崇市長が、第一走者の元女子フィギュアスケート五輪代表鈴木明子さんのトーチに点火した。

会場近くにある、くるみ保育園(松葉町)の園児たちがサポーターランナーとして登場。鈴木さんの後を走り、エールを届けた。出発式は新型コロナウイルスの感染防止対策で、関係者以外の入場を制限したため、近くの沿道に多くの市民が詰め掛けた。

豊川市では、出発地の豊川稲荷でミニセレブレーションがあった。第一走者でプロバスケットボールBリーグ・三遠ネオフェニックスに所属する地元出身の太田敦也選手が、竹本幸夫市長から聖火を受け継いだ。

豊川高校の吹奏楽部や和太鼓部の生徒五十四人が、息の合った演奏でセレモニーを盛り上げた。同校駅伝部と豊川工科高校陸上競技部の生徒二十人もサポーターランナーとして太田選手を推進。豊川工科高三年の都築龍弥主将は「沿道の人たちの拍手が温かかった。リレーに参加でき誇りに思う」と話した。

市農務課職員が日本一の生産量を誇る市特産の「とよかわバラ」を市民らに配布。出発時にバラのフラワーシャワーでランナーを送り出す演出もあった。



伴走者とともに聖火を掲げて走る清川さん(左)＝豊川市で



観客に手を振って走る太田さん(左)＝豊川市で



笑顔で聖火を掲げる島崎さん(左)＝豊川市で (代表撮影)



軽快な足取りで聖火を運ぶ加藤さん(左)＝豊川市で (代表撮影)



笑顔で聖火を運ぶ伊藤さん(左)＝豊川市で

豊橋、豊川両市を走った東三河在住の聖火ランナーに聞いた感想、思いを紹介する。

豊橋市の元フィギュアスケート選手鈴木明子さん(モ) 本当にたくさんの方が応援してくれました。こんなにも皆さんに支えられてきたんだと実感した。皆さんと共に走っている感覚で胸が熱くなった。選手たちが力を発揮できる五輪になってほしい。(豊橋市)

豊橋市の会社社長加藤央之さん(モ) 一生忘れられない日になった。外食チェーンを経営していく中で、コロナ禍で人と人との関わりがなくなっていると感じる。だが沿道の方々の笑顔を見て人の温かさを感じた。(豊橋市)

豊橋市の会社員島崎美奈子さん(モ) 小学生のころから走るのが大好きで、五輪のマラソンでラストスパートをかけて、金メダルを取るシーンをいつも妄想していた。聖火リレーの夢舞台で走れて感無量。私の走りが五輪を盛り上げるのにかげらなくなったらしい。(豊橋市)

豊川市の三遠ネオフェニックス

人の温かさ感じた・夢心地の200分



笑顔で走る小久保さん(左)＝豊川市で

選手太田敦也さん(モ) 日本全国が笑顔になれば、という思いで走った。沿道はこちらがっついて笑うようになるくらい良い笑顔ばかり。試合でも、あんな良い笑顔に向けてくれるような活躍がしたいと思った。頑張りたい。(豊川市)

豊橋市、鍼灸あんま師清川哲央さん(モ) 四十歳のころに病気で視覚障害を患った。視覚障害の人は消極的になりがちだが、若い子にスポーツの素晴らしさを伝えたくて走った。沿道の声援の温かさと、聖火そのものの暖かさを感じた夢心地の二百分だった。(豊川市)

豊川市、体操教室主宰伊藤聖子さん(モ) 聖火リレーが一年延期になった時に、高齢の生徒たちから「あなたが走るまで死ねない」と言われた。沿道でそんな生徒たちが元気に立っているのを見て、この時代に希望や目標を持ち続ける大切さに気付かされた。(豊川市)

豊橋市、自閉症についての啓発活動を行う小久保雅太さん(モ) みんなに応援してもらって本当に楽しかった。トーチキスがうまくできてよかった。(豊川市)

* 聖火リレーの写真

